# 死亡のち転生ときどき死亡

光秀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
死亡のち転生ときどき死亡

【Ｎコード】
Ｎ６８３９Ｚ

【作者名】
光秀

【あらすじ】
神の手違いにより死んでしまった青年。そんな彼がチートな能力を手に入れ恋姫の世界で頑張っていくお話です。

※この作品は作者の駄文によって構成されています。それでも良いという方だけ読んでくださった方がよろしいと思います。なおオリキャラが出ますのでそのへんも了承した上でお読みください。批判、感想、アドバイスなどありましたら作者のためと思い言っちゃってください。しかしあまり露骨に批判などはなさらないでくださると

ありがたいです。

## 神との出会い（前書き）

神の手違いによって死んでしまった青年。そして青年は新たな外史の扉へと案内される。

## 神との出会い

僕は今浮いている。いやプールの中に沈んでいるっていうのかな？

この世界はなんだろう？

だけどなんとなく予想は出来ているんだ実は。

そう。僕は死んじゃったからここにいるんだ。多分。

あ～あ。今覚えばパッとしない人生だったなあ。もっと遊んどきゃよかった。田中と馬鹿やったり清水さんとももっと仲良くしとけばよかったよ。

今更遅いんだけどね。

……。

死んだのはしょうがないけどなにかしらアクションが無いのかな？死神が迎えにくるとか両脇を天使に支えられて昇天していくとかさあ。

そんなことを考えている時だった。

「ごめんごめん。待たせちゃったかな？」

その声が聞こえたと思ったら僕の目の前には僕と同い年くらいの男の子がいた。ちなみに僕は十八歳なんだけどね。まあそんなことはどうでもいいよね。

「え～と…。どちらさん？」

「いやあ。私は君の知ってる言葉で言うと神って奴かな。まあ称えてくれちゃっていいよ」

ふ～ん。

さほど驚きはしなかったよ。なんでかって？まあ実際この神様が現れるまで体感時間的に三十時間ぐらいたってたからだよ。最初こそ狂ったように騒ぎまくってたけど二時間ぐらいたったら落ち着いてね。以後二十八時間は状況整理に追われていたわけ。だからもう少しぐらいのことじゃ驚かないよ。

「神様？じゃあ僕は頭にわっか付けて天国に連れて行かれちゃうのかな？」

僕は聞いたよ。聞かないと始まらないから。

「え～と……。そのことなんだけどね」

神様は申し訳なさそうにそう言ったんだ。

！？もっもしや僕は天国じゃなくて地っ地獄に連れて行かれちゃうのか？

「もしかして僕の行くところって……」

恐る恐る聞いてみた。事と次第によっては速攻で逃げるつもりだったよ。行き先なんてないけど。

でも神様の一言はそんなことじゃなかった。

「実は君の死はイレギュラーだったんだ」

威厳もへったくれも無い感じで神様は頭を掻きながら言った。

「イレギュラー??」

「うん……」

その後詳しい話を神様から聞いたんだけどどうやら僕は手違いで死んじゃったらしい。なんでも神様の友達で死神のしーちゃんっていうのがいるらしいんだ。で、そのしーちゃんが間違って僕を殺しちゃったんだって。まったく迷惑な話だよ。

「それで特別に君を転生させることがさっきやってた神様会議で決まったんだ」

あ〜なるほど。さっきさんざん待たされたのはその会議をやってたからなんだね。

「じゃあ。また田中とか清水さんに会えるって事?!」

僕は少し心躍った。

だけどそんな僕の健気で儚い妄想は即座にうちやぶられた。

「それは無理なんだ。その世界では君は既に死んでいる。これは揺ぎ無い事実なんだ。だからこれを覆すことはさすがに出来ないんだよ」

ええ～。俺は少しふてくされてみる。

だけど俺のそんなアピールも全然神様には通じなかった。

「本当にごめん。でも変わりに君を好きな世界に転生させてあげるよ」

むむ！これはとんでもないことを言ってくれたな。

俺は少し考えてみた。しかしそんなことを言われてもパッとでてこない。

あっ。

でも一つだけあった。

「三国志」

「ん？」

「僕は三国志の世界に転生してみたい」

もともと歴史好きな僕である。特に三国志はとてもお気に入りだった。

多少の不安はあるもののどうせ手違いとはいえ一度死んだ身だ。だったら大好きな三国志の世界で骨を埋めてやろうじゃないか。そんな事を思ってしまった。

今僕はヤケクソになっているかもしれない。まあでも仮に死んで間もない奴に冷静でいろって奴がいるなら僕はそいつと一対一で討論をしてみたいものだね。

すると神様はこう言った。

「三国志……。うん、そうだね。それならいいよ。あっ！後せめてもの罪滅ぼしとして僕から君に良い力を授けてあげよう」

神様は僕にグーサインを出して言った。

「君は一回死んでいる。しかも私たち神のせいで。だから死んでも生き返る力をあげよう。詳しく説明するとね、君が仮に死んだとする。その場合、私のさじ加減でその死んだ時から少し前に生き返らせる。こういうものなんだけど」

……。

いやいやまさかそんなチートみたいなことが起こるはず無かろうが。俺は半信半疑だった。

しかしそんな僕の思いなど神様は気にしない。

「じゃあ色々と決まったところで君を早速連れてってあげるよ」

すると神様は右手を振り上げなにやら呟き始める。

「ちょッ！待った！」

そんな言葉が届く前に僕は激しい頭痛とともに意識を失っていった。

## 神との出会い（後書き）

こんな能力あったらいいですよね。でも実際あったらどうなんでしょうね？
悩むところです。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6839z/

死亡のち転生ときどき死亡

2011年12月22日23時53分発行